

確定図作成の計上数量

(別紙)

(基本事項)

○計上単位：㎡当り

○確定図の作成範囲：市有地と隣接部（両側とも幅5m）
（区域線から5m幅程度の現況構造物等の絵形記入を含む）

○基本範囲だけでは、関連確定図等、周囲とのつながりが不明な場合、+10mの絵形を書く。

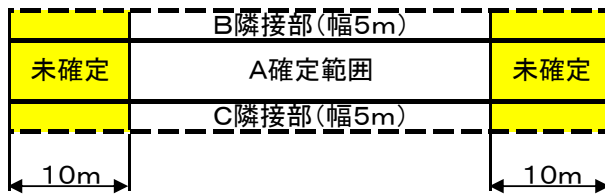
(確定図作成の基本範囲)



(基本範囲以外の例)

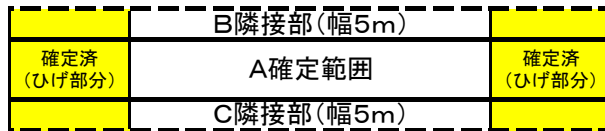
(1)基本範囲だけでは、関連確定図等、周囲とのつながりが不明なため、+10mの絵形を書く場合。

(例-1)接続部が未確定区間の場合



計上面積=A+B+C+両側10mの網掛部分

(例-2)接続部が確定済区間の場合

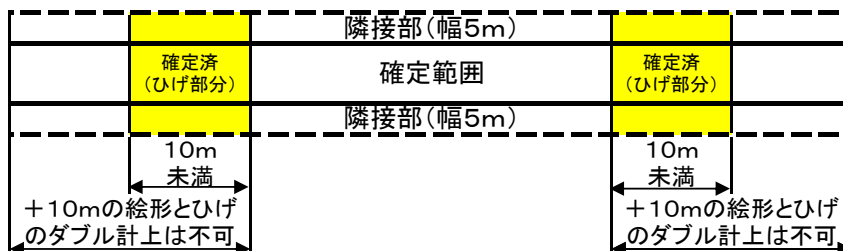


計上面積=A+B+C+両側の網掛部分(ひげ伸ばし部分)

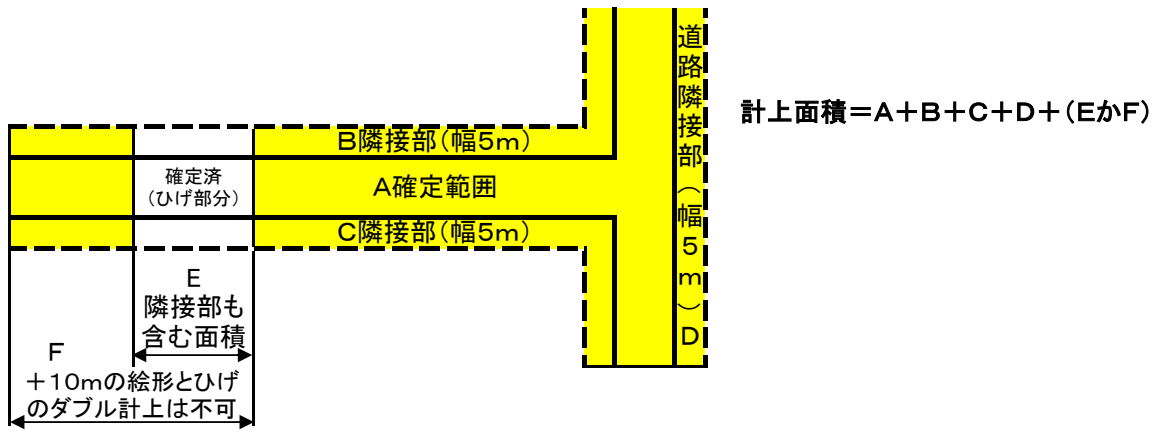
<注記>

上記(例-2)のように確定範囲から1区間先の境界標までの、ひげ伸ばし区間の計上はできる。
この場合、ひげの長さが10mに満たない場合で、+10m範囲の絵形を書いた場合は、+10mの請求に切り換えて請求することは出来るが、ひげと+10mのダブル計上は出来ない。

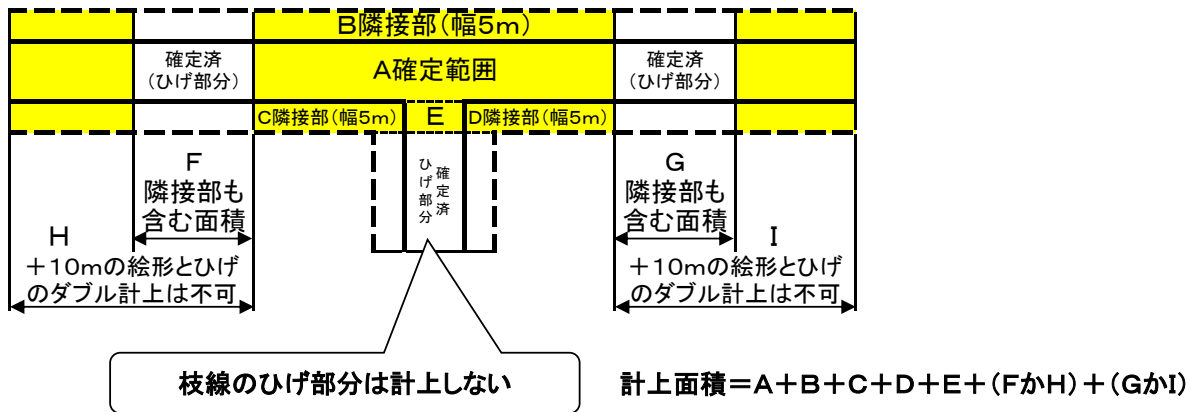
(例-3)上記<注記>の説明



(例-4)交差点を含む場合



(例-5) 交差点を通過する形での確定区間の場合



(例-6) 道水路の終点部分の場合

